

令和4年度 第1回新発田市総合教育会議（会議録）

- 1 開催日時 令和4年10月13日（木）
開会：午前10時00分 閉会：午前11時55分

- 2 開催場所 新発田市立猿橋中学校 2階被服室

3 協議事項

- (1) しばたの心継承プロジェクトの取組について
(2) 防災キャンプについて

4 出席者

市長	二階堂 馨
教育長	工藤 ひとし
教育委員（教育長職務代理者）	関川 直
教育委員	村川 孝子
教育委員	山崎 由紀

5 会議に出席した事務局職員等

○市長部局

みらい創造課長	原 祐司
みらい創造課課長補佐	鳥海 貴宣

○教育委員会事務局

教育次長	鶴巻 勝則
教育総務課長	橋本 隆志
学校教育課長	小野沢 謙一
学校教育課教育センター長	中野 隆一
生涯学習課長	井浦 智明
教育総務課課長補佐	本田 陽子
教育総務課教育総務係長	杉林 直樹
教育総務課主任	渡邊 貴子
教育総務課主事	渡邊 悠斗
生涯学習課嘱託	荒木 一成

○猿橋中学校

校長	本間 道夫
----	-------

6 協議・報告事項の経過

別紙次第のとおり

(1) 開会

○事務局（原みらい創造課長）

ただいまから令和4年度第1回新発田市総合教育会議を開催いたします。はじめに市長から御挨拶をいただきます。

(2) 市長挨拶

○二階堂市長

おはようございます。日頃から当市の教育行政に御尽力いただき、本当にありがとうございます。

私は小さい頃、大変な甘えん坊で母っ子でありました。母のスカートやエプロンを握りながら、常に母と一緒に過ごす、それぐらい甘えん坊でした。自分が結婚して子どもが生まれた時に、母に「子どもはどうやって育てたらいいか。」と尋ねましたが、「子どもの心に親の顔を映せ。あとは1人で育つ。」と言っていたのを覚えています。

高校生の頃は大変な乱暴者でありました。今考えてみても、よくこの社会に踏み留まったな、と思うぐらい大変な暴れん坊でありました。しかし、踏み留まらせたものは、意識・無意識は別としても、母の顔だったのではないかと考えているところであります。

「新発田の子ども達には東京やニューヨークでも活躍をしてほしいが、『してお終いなことはしない、という踏み留まる勇気』、『しなければお終いなことをする、という一歩踏み出す勇気』を育んでもらいたい。」、そのようなことを佐藤前教育次長に話したことを覚えております。その後、佐藤前教育次長から「しばたの心継承プロジェクト」というものを事業化したいという話を聞いて、大変期待し嬉しく思っておりました。今日はその一端が垣間見れるということでありますので、大いに期待しております。

アメリカのケネディ大統領の言葉に「結局のところ、我々は次の世代の子ども達を思いながら死んでいく。」というものがあります。我々の未来であり、しっかりと育ててまいりたいと考えておりますので、皆様からも御指導をよろしくお願いいたします。

(3) 協議事項

○事務局（原みらい創造課長）

ありがとうございました。それでは、これより本日の協議事項に入らせていただきます。

新発田市総合教育会議の設置要綱の規定により、当会議の議長は市長が行うこととなっておりますので、進行につきましては二階堂市長にお願いいたします。

○二階堂市長

それでは協議に入ります。本日1つ目のテーマは「しばたの心継承プロジェクト」についてであります。

はじめに小中学校及び猿橋中学校での取組状況とその効果についてそれぞれ説明を受け、後ほど意見交換をさせていただきます。それでは事務局から説明をお願いいたします。

○中野教育センター長

おはようございます。学校教育課教育センターの中野隆一と申します。資料又はスクリーンを御

覧ください。

学校では、本プロジェクト以前から「総合的な学習」などで地域のことを学んでおり、80%近くの子ども達が「地域に対する興味や関心が高い」と答えておりました。それまで「地域」という漠然とした学習素材だったものを、「新発田」という故郷に絞り、故郷を愛し誇れる人を育てるために各校で工夫した取組を行ってきたものが「しばたの心継承プロジェクト」であり、今年で3年目を迎えます。

市教育委員会では、全小中学校への地域コーディネーターの配置、地域コーディネーター研修会や担当者研修会の開催、プロジェクトの推進のぼり作成、実践モデル校による授業公開、みらいずworksによる授業支援などを行ってまいりました。各校はこれまでの取組を更にダイナミックに展開すると共に、新しい学習素材に挑戦させ、深い学びを行うことができました。

新発田に息づく人々の思いを感じる学習、新発田の未来を考える学習、新発田で働く人の思いや苦勞を知る学習、新発田の農業と食を考える学習、新発田の人との出会いを大切にする学習、新発田の人達と新しい伝統を作る学習、食を通して新発田への思いを深める学習、新発田のお菓子作り名人と触れ合う学習、新発田のお茶・和菓子などの文化の学習、新発田の歴史をより深く学ぶ故郷巡検。活動時は「プロジェクトのぼり」を掲げ、いきいきと学習しました。観光ガイドさんから「外から見た新発田の良さ」を学び、学んだことを発信することもありました。開志学園高等学校男子バスケットボール部の富樫監督から新発田への思いを語ってもらいました。たくさんの新発田の大人と未来を語り合いました。自分たちの育てた野菜をたくさん買っていただき、生産する喜びを味わった小学生もたくさんいました。

このように工夫した取組の結果、プロジェクト1年目で目標値を上回り、新発田という故郷に興味や関心が高い、たくさんの子どもを育てることができました。

今後は「新発田をもっと良くするためにはどうするか。」を考える子どもを育てていければと考えております。概略につきましては以上です。

○本間猿橋中学校長

猿橋中学校長の本間道夫と申します。引き続き猿橋中学校の取組を説明させていただきます。

本日は当校2学年の総合的な学習の時間で行う「しばたの大人と未来を語る会」の公開授業にお越しいただきまして誠にありがとうございます。授業参観に先立ちまして、猿橋中学校の「しばたの心継承プロジェクト」の取組を御説明させていただきます。

「新発田市の教育」に示されている「しばたの心継承プロジェクト」の目指す内容に基づき、猿橋中学校では同プロジェクトの目標を、「地域を知り地域のためになる活動を通して、生徒の自尊感情や自己有用感を高める。」としました。

具体的な猿橋中学校における主な取組です。各学年とも5月に地域を知る活動や地域に貢献する活動を行います。そして今年、2年生ではこれまで学習した内容を基に、「しばたの大人と未来を語る会」を計画いたしました。コロナ禍以前はキャリア教育の一環として行う「職場体験」を行っていましたが、感染症拡大により校外での活動が難しくなったため、それに代わる活動として、地域の社会人の方をゲストとして学校にお招きして実施するものです。

年に2回行う学校評価で、地域への愛着や興味関心について生徒に質問をしました。「総合的な学習の時間等の活動を通して、地域への愛着や興味・関心を持つことができましたか」という問に

対して、今年度は47%が「そう思う」、34%が「どちらかというと思う」と答え、生徒の8割が肯定的に捉えており、その割合は年を追うごとに増加しております。

次に「あなたは人の役（ボランティアなど）にたっていると感じるがありますか」という問に対して、今年度は30%が「そう思う」、40%が「どちらかというと思う」と答え、生徒の約7割が肯定的に捉えており、その割合も年を追うごとに少しずつではありますが増加しております。

本日の「しばたの大人と未来を語る会」についてです。この取組は、昨年度に引き続き2年目となります。ねらいは「しばたで働く大人との語り合いを通じて、その生き方や働くことの意義を学び、主体的に自己と生き方を考えるとともに、地域への愛着を深める」こととしました。

具体的な内容としては、27名の社会人ゲストをお招きし、「生き方トーク」、「働き方トーク」を中心に、写真にあるような人生チャートを活用して、スライドの下の方に書いてあるような内容を、ゲストと生徒の間で、座談会形式で行うこととしました。なお、本事業は企画段階から「NPO法人 みらいずworks」さんに御協力をいただきながら進めてまいりました。

今回お招きした社会人ゲストの皆様です。昨年度は24名のゲストをお招きしましたが、今年度は27名をお招きすることができました。昨年に引き続き参加して下さった方もおられます。具体的なゲストトークにつきましては、この後の授業参観で御覧いただきたいと思います。

簡単ではありますが、以上で猿橋中学校の取組について説明を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○二階堂市長

これまでの取組について説明をいただきましたけれども、実際に子ども達が行っている様子を拝見させていただきたいと思います。公開授業の会場に移動しますので、本間校長先生から御案内をお願いいたします。

公 開 授 業 参 観

※猿橋中学校 「しばたの大人と未来を語る会」

○二階堂市長

先ほど事務局から説明をお聞きし、公開授業を御覧いただきましたので、何かお気付きの点や御意見等がありましたら発言をお願いいたします。

○村川委員

素晴らしいゲストの方がたくさんおられて、これだけの人材を集めるのは大変だったのではないかと思います。子ども達に向き合い、御自分のこれまでの経験を真剣に話される大人の方々の熱意は、きっと子ども達に伝わっていくだろうと思いながらお聞きしておりました。

前半は子ども達も緊張していたようですが、最後の方には打ち解け、顔を近づけて話をしている様子が見られました。あのような体験が子どもの育ちにつながっていくのではないかと思います次第です。

質問の1つ目は、そのような人材をどのように集めてこられたのかということです。また、全小中学校に地域コーディネーターが配置されていますが、どの程度の規模で配置されているのでしょうか。また、みらいずworksさんの協力が大変大きく影響しているかと思いますが、今後も継続可能なのか、お聞きしたいと思います。

○本間猿橋中学校長

人材確保が一番ネックになっていたことであります。どうすれば様々な職種の方にお引き受けいただけるかと考え、昨年度は最初に市教育センターに相談させていただきました。教育センターから様々な方を御紹介いただいたことが非常に大きかったです。また、職員からも声を掛けられそうな方に関する情報を少しずつ収集していった結果、昨年度は24名のゲストをお招きすることができました。今年も昨年度の3分の2ほどの方には引き続き御参加いただき、新たに職員が人材の掘り起こしを行った結果、今回27名の方に御参加いただくことができました。本当に感謝しております。

○中野教育センター長

地域コーディネーターにつきましては、全小中学校に配置しております。300時間という上限がありますが、上限まで依頼している学校もあれば、半分程度しか依頼していない学校もあるというのが現状です。

みらいずworksさんは話し合いのコーディネートをしてくださる団体ですが、年間2校分、今年度は猿橋中学校と豊浦小学校に業務委託ができるよう予算計上しております。来年度以降につきましても要望している状況です。

○村川委員

素晴らしい取組だと思いました。人材の確保と、みらいずworksさんの様々な、これまでのノウハウが生きてきている結果だと思います。継続しながら、持続可能な活動にしていきたいと思います。

また、取組の中で子ども達のどのような資質・能力を育てていくかということも、学校だけではなく、地域や本日おいでになったゲストの方々とお話されている状況ではないかと思います。そういったことが、このように熱心な子ども達の様子を引き出すことにつながっており、大切なことだと思います。このような良い活動を地域や学校だけで止めないで、ぜひ市民の皆様にも伝えていただきたいと思いますし、ウィズコロナ社会に向けて、持続可能な活動になるよう取り組んでいただきたいと思います。ありがとうございました。

○二階堂市長

他の学校でも、猿橋中学校と同様の形式で取り組んでいるのでしょうか。

○中野教育センター長

全ての中学校が同じ形式で行っているわけではありません。しかしながら、社会人の方をお呼びしてお話を聞いたり、一緒に活動するといったことは全中学校で行っております。

○二階堂市長

講師の皆さん方を選択するのが一番の肝だという話がありましたが、講師の選定や人材の掘り起こしの部分は教育委員会として指導しているのでしょうか。

○中野教育センター長

講師選定につきましては、学校にお任せしている状況です。

○鶴巻教育次長

猿橋中学校のように地域の方や事業者の方と対話形式で行っている学校もありますし、最初に中野教育センター長から説明がありましたように、子ども達が各地に出向いて新発田のことを勉強するという学校もあります。農家の方に出向き、様々な話を聞いて事前勉強を行い、体験後に振り返りを行うなど、各校ごとに子ども達が関心を持てるような形を取り入れながら、地域との結びつきについて様々な学習をしている状況です。必ずしも今回の形式を全ての学校が行っているわけではございません。

○小野沢学校教育課長

私からも補足説明をさせていただきます。本間校長先生から説明がありましており、猿橋中学校での講師選定につきましては、昨年度、教育委員会からも人材を推薦する形を取りながら、学校でも確保に努めてまいりました。また、職場体験の形も、「しばたの心継承プロジェクト」によって焦点が絞られ、従来のただ体験する活動から、事前に職場の方から課題をいただき、「解決するにはどうしたらいいか」ということを子ども達が学習した後に職場体験を行うなど、質の方が非常に高まっております。

○二階堂市長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。ないようでありますので、次に移りたいと思います。

続きまして、本日2つ目のテーマである「防災キャンプ」に移りたいと思います。

はじめに、「小中学校での防災教育」及び「防災キャンプ」についてそれぞれ説明を受け、後ほど質疑等を行いたいと思います。それでは事務局から説明をお願いいたします。

○小野沢学校教育課長

学校教育課長の小野沢です。小中学校の防災教育について説明させていただきます。

文部科学省は、「防災教育は災害に適切に対応する能力の基礎を培うことを目指し、それは生きる力を育むことに密接に関連している」としています。そのためには、災害発生の理屈を知ること、社会と地域の実態を知ること、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そしてそれを実践に移すことが必要とされています。

そこで、新潟県内の全ての小中学校では、平成26年度から津波、地震、洪水など、あらゆる自然災害等を想定した新潟県防災教育プログラムを活用した防災教育に取り組んでいます。併せて地震津波等の自然災害や不審者から身を守るなどの避難訓練も防災教育として行われています。

当市では国や県の方針を受け、各校で作成している危機管理マニュアルの中に災害発生時の対応を明記し、教職員の共通理解を図る中で、人と関わり地域に学ぶ活動から児童生徒の生き抜く力を育む防災教育を展開しています。

その中でも、小学校におけるあかたにの家を活用した「防災キャンプ」は県内でも類を見ない、特色のある防災教育の1つです。避難所体験はもとより、様々な体験活動から「自分の命は自分で守ること」、「人と助け合い協力すること」の大切さを学んでいます。防災キャンプの詳細につきましては、この後生涯学習課より説明をしていただきます。私からの説明は以上です。

○井浦生涯学習課長

生涯学習課から防災キャンプについて御説明をいたします。

はじめに防災キャンプのコーディネーターである荒木囑託から概要説明を行った後、実際に行っている防災キャンプの様子をDVDで御覧いただきますので、よろしくお願いいたします。

○荒木囑託

生涯学習課の荒木と申します。本日は貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。

動画視聴の前に、若干防災キャンプについて概要を説明させていただきます。

当市では、平成27年3月に閉校した旧赤谷小学校を「青少年宿泊施設あかたにの家」として活用し、平成29年度から市内の全小学校を対象に防災キャンプを実施しております。今年で6年目に入りました。

防災キャンプでは主に「災害からまず自分の命を守る」、命を守ったら「災害から生き抜く」、それが避難所や自宅であるわけですが、「災害を生き抜く力」を育成するため、一般的な知識や技術を教えるだけではなく、実際に子ども達はあかたにの家で避難所体験を行い、みんなで協力すること、備えることの大切さなどを学んでももらいたいと考えております。また同時に、自然には恵とめぐみ災わざわいの両面があるということを知り、災害に備えながらも、多くの恵みを与えてくれる新発田の地域の良さを再発見し、そこに住みたいと思う「郷土愛」を育んでいきたいと考えております。

新発田市の防災キャンプは、防災教育、防災分野のフロントランナーとして、全国で大変注目をされております。その一例を挙げます。東日本大震災の際に「津波てんでんこ」で一躍有名になった群馬大学名誉教授の片田先生と共に、以前から仙台市等で防災教育に取り組まれており、防災教育について全国的に著名である群馬大学の金井教授が、当市の防災キャンプに注目をされました。学校と行政が連携し、体系的なプログラムで継続的に6年間も実践しているというのは全国に例を見ないということで、群馬大学の研究対象となっております。令和2年には文部科学大臣から防災キャンプの取組が評価され、文部科学大臣表彰を受けました。その様子につきましては、全国誌の「月間公民館」にも先進事例として掲載され、全国の各県から問い合わせをいただいております。なお来年度は神奈川県海老名市の子ども達もあかたにの家で防災キャンプを行う予定になっていると聞いております。また、今月9日の日曜日には、NHKで新発田市の防災キャンプが大きく報道されました。防災キャンプの活動内容は各校によって異なりますが、「自分で考えて判断すること」、「災害が起こったときに命を守るためにどう行動すればよいかということ」、「命を守った後に災害を乗り越えていくには、人と協力したり譲り合ったりしなければならないこと」を学ぶ活動は、各校の活動の中に入れていただくようお願いしております。

これから平成29年に作成したDVDで活動の一部を御覧いただきたいと思います。こちらは各学校に参考資料として配布しているものであり、指導されているのは長岡市の「NPO法人 ふるさと未来創造堂」の方であります。

防災キャンプDVD視聴

※平成29年度作成

○荒木囑託

DVDで12の活動を御覧いただきました。活動につきましては、導入、展開、まとめといった指導計画の参考になるよう、各校に「防災キャンプ報告書」として配布しており、各校はこれを参考に計画を作成しております。

また、防災キャンプがより充実したものになるよう、毎年度、引率担当や管理職の先生方を対象に、あかたにの家で事前研修会を開催しております。実際に先生方にこれらの活動を体験していただくことで、当日は自信をもって子ども達を引率されております。

冒頭に申し上げましたが、学校と教育委員会が連携して継続的に行っている例は全国でも珍しいものであります。説明は以上です。

○二階堂市長

説明が終了しましたので、質疑を行います。何かお気付きの点や御意見等がありましたら発言をお願いします。

○井浦生涯学習課長

1つDVDの補足説明をさせていただきます。川の体験活動を行っていた場所の水位は膝程度でありましたが、下流の方で防災キャンプとは無関係ながら事故が発生したため、また、ここ2年間はコロナ禍により川の体験活動を休止しておりました。来年度来られる神奈川県海老名市さんも川の体験活動は行いたいという意向があるそうですので、安全な活動ができるよう準備してまいりたいと考えております。

○山崎委員

敬和学園大学の山崎と申します。私共の大学の方でも防災教育に対しては非常に強い関心を持っております。また、個人的な話で恐縮ですが、私は大学のボランティア委員会のメンバーでもありますので、この件に対して大変に関心もございまして、あかたにの家での防災キャンプの取組は本当に素晴らしいと思います。群馬大学に専門の先生がおられるということで、専門の先生についてこの取組が始まったということも素晴らしい機会を得られたと思っております。先日のNHKの番組も拝見しましたが、非常に豊かな取組であったということに感銘を受けました。こちらの資料には、主に4年生を対象に1泊2日又は日帰りという展開例として出ております。これは小学生の時に1回だけの体験になるのかということを質問させていただきます。また、指導者につきまして、DVDでは長岡市の「ふるさと未来創造堂」さんの御指導ということでしたが、指導者の選定はど

のような基準や目的を持って行われたのか、お聞かせいただけますでしょうか。

○小野沢学校教育課長

最初の質問にお答えいたします。防災キャンプにつきましては、各校での活動は4年生で1回としております。様々なカリキュラムがありますが、防災キャンプを学校の教育活動の中にきちんと位置付け、新発田市の全小学校が様々な体験活動を行っております。

○井浦生涯学習課長

補足ですが、小学校では6年生は修学旅行、5年生は自然の家体験などを行っていることから、4年生は防災キャンプ体験と考えております。学校でも4年生で防災について学習しています。

2点目の講師の選定につきましては、荒木コーディネーターから説明いたします。

○荒木囑託

学校に「防災キャンプ指導者リスト」を配布し、十数名の方々と御紹介しております。中には報償費等の謝礼が必要な方も無償の方もおられますが、こういった活動ができるかということが記載されております。各校で目的にあった指導者を選び、連絡を取りながら進めているところであります。

○山崎委員

十数名のリストの方は、どのように選出されているのでしょうか。

○荒木囑託

各校が指導者としてお招きしている地域の方の中から、他の学校に対しても指導していただけるという了解を得た方を中心に、リストに掲載しております。例えば「加治川ネット21」さんは川活動、社会福祉協議会、新潟県赤十字、新潟PUSHという大学の先生のサークルなど、心肺機能専門の団体も無償です。概ね無償の方々と紹介しております。

○山崎委員

地域で活動されている団体等、皆様が御存じの方々が無償で引き受けていただいているのが中心になっているというお話をお伺いしました。私は今年の8月3日発災の新潟県北部水害の関川村の災害ボランティアセンターの設置の手伝いと受付を10日間ほど行ってまいりました。私共の大学も非常にお世話になっている三条市の団体で、全国で発災するとすぐに理事長が来られて防災ボランティアセンターの立ち上げに当たられるという団体があります。防災又は発災後の教育に関して、非常に力のある指導者が県内におられるということを付け加えさせていただきたいと思います。

また、4年生で1回だけというのは現段階では適切かもしれませんが、もう少し上の学年、小学校では時間が確保できないということであれば中学生でも良いかもしれません。現在の活動にも含まれていることはわかりましたが、今申し上げたように、防災、発災後の災害ボランティアセンターの立ち上げのような知識、人を助けることに特化したような視点というの、良いのではないかと思います。

もう1点ですが、A3版のカラーの資料の右上「効果的なプログラムとするために重要視するポイント」の2番目の「協力・助け合い精神を育む活動」に「多くの人が集まる避難所ではどのようなルールが必要なのか考えて協力させ、協力・助け合いの大切さを意識づけるように工夫した」とあります。4年生の段階ではこれでよろしいかと思いますが、先ほど申し上げた助ける側になる時に、ぜひ子ども達にも考えてほしいことですが、防災に限らず様々な場所でユニバーサルデザインということが言われており、ルールだけでは対応できない方たちも含めて一緒に生活していかなければならないという発想があります。ルールを守れない人は駄目だと言ってはならないのが教育だと思いますので、ユニバーサルな形で助け合いということにこの活動が広がっていくことを強く希望したいと思っております。

少し前後しますが、1つ目の「自ら学び考え、気づきを得る活動」は防災キャンプだけではなく、「しばたの心継承プロジェクト」などもそうですが、自分の頭で考え、自分の言葉で発言する、それを許す環境は学校が絶対的に作らなければなりません。アクティブラーニングと言われていますが、受け身の教育を大きく転換していかなければ、実質的にはこれは可能になりませんので、非常に注意深く考えていかなければならないと思いました。

私共は、閉校した旧小学校の清掃等で学生達が協力させていただいておりますが、学生や私達は「いつ被災者の方たちが来られてもいいように掃除しておかなければならない」と考えて作業を行っております。もちろん市へ御報告はしておりますが、旧小学校では、1年から1年半程度使用されていないだけで、トイレのタイルが触るとバラバラと全部落ちてくるような状況になっている場所もあります。あかたにの家がこれだけ素晴らしい活動をされておられるので、市内の旧小学校も良い形で使用できるように御準備いただけたらというのが私からのお願いです。以上です。

○二階堂市長

ありがとうございました。他にございますでしょうか。

○工藤教育長

今日は大変ありがとうございました。本間校長先生も大変御苦勞様でした。

冒頭に市長さんが「踏み止まる」という言葉をお使いになりましたが、小中学生から高校生は、本当に揺れ動く時期であります。そういう時に自分に自信や誇りが持てたら、やはり行動は変わってきます。そういう意味で自己肯定感や自己有用感という言葉が出てきました。今新発田ではその心を育むために「しばたの心継承プロジェクト」を立ち上げ、市長さんの思いも含めながら実施しておりますが、「自分に自信を持てる」、「自分は生きる価値がある人間だと思う」、「自分は誰かの役にたっている」ということがやはり基本にあります。今までは体育館での講話など、大勢を対象としたものが多く、講師の方と子ども達とのやり取りは多くありませんでした。しかし、山崎委員からお話がありましたように、自分の意見を言い、それに対してどういう意見が返ってくるかということを確認するためには、今日猿橋中学校が行った少人数での話し合いというのが有効です。興味関心があっても、確か猿橋中学校は570名程度の生徒数だと思いますが、その中で勇気を持って質問するということは、子ども達は照れもありできません。しかしながら、今日のような少人数であれば、子ども達が質問し、講師の方が答えてまた話をするという、文部科学省が求めている「深め合う」、「自分で考える」ということができていると思いました。

特に私が感心したのは、社会人講師の皆さんが自分の失敗談を語ってくださっていたことです。「自分は今こういう仕事をしてるけれども、実は小中学校のときはみんなから仲間外れにされ、思う通りの人生ではなかった」というような、失敗や本意でなかったことを話されている方がほとんどでした。中学生は成功例をいろいろ聞いても共感はしません。失敗してもちょうとやっていけるんだということ、それが私はこの「しばたの心継承プロジェクト」の素晴らしいところだと思っています。

各校にコーディネーターを配置してきちんと実施しているのは新発田市だけです。村上市も実施はしていますがコーディネーターはいません。組織的なものではなく、ほとんど学校と近所の方のみで実施している状況であり、当市のこのやり方は素晴らしいと思っています。横の連携もあり、他校の活動を自校の参考にするため、今日も多く他校の先生方が参観に来られていました。コロナ禍で接触することが難しい中、本日公開授業を開催していただきましたが、各校が学んで次につながっていきます。また、子ども達の中に「自分で考え、自分で行動し、人のために役立っていこう。」という気持ちが生まれてきていますので、今日は本当に良かったと感じております。並々ならぬ努力もあったと思いますが、こうやって2年目、3年目になってきたときに、その効果がやはり現れてきています。先ほど中野教育センター長が説明したとおり、「自分の身の回りに関心を持てる」、「自分の育ったところに関心が持てる」という効果は、小学校でも同様に高くなっております。自分の学校、自分の地域に誇りを持てた子どもは悪いことはしません。私の中学校時代の生徒指導の中で、悪いこと、意に反することというのは、小学生でも中学生でも高校生でも、やんちゃな子はやるものです。市長さんが言われたように、最終的に「踏みとどまる」のは、愛情を感じた時だと思います。愛情というと家族愛がありますが、地域愛、郷土愛なども子どもの心が触れた時に生まれるものだと思いますので、私はこの活動をぜひこれからも続けていただき、子ども達に「人を想う心」、「自分でものを考えて命を大事にすること」を育んでいただきたい。自分の命を大切にできなかった子は人の命も大切にしません。自分の命が大切だと思えば人の命も大切にします。最近、「死にたかった。ヤケになった。でも1人で死ぬのではなく周りを巻き込んで死のう。」といった犯罪が増えています。「周りを道連れにして自分は死刑になりたい。」といった危険な発想は、こういう活動を通してなくなってくると思いますので、ぜひ続けていただきたいと思いました。

御協力いただいた猿橋中学校には感謝しております。ありがとうございました。

○二階堂市長

ありがとうございますした。他にございますでしょうか。

防災キャンプで1つ事務局に確認します。

神奈川件海老名市に新発田市への来訪についてセールスを行った。今後は浦安市にも行うことになり、市外からツーリズムで来られることも多くなると思っている。防災協定を結んでいる自治体は新発田市民と同じ扱いにするようにと指示をしたが、話に出ていた防災指導者の方々は対応していただける状況なのか。市内の学校には指導するが、市外の方には指導できないということになると、あかたにの家を貸すだけでは何もならない訳だが、十分対応できる状況になっているのか。

○鶴巻教育次長

生涯学習課の方でそのようなカリキュラムが組めるように、準備を進めているところであります。

御協力いただいている団体がありますので、まず内部でできるものがどういうカリキュラムなのか、いくつか選択ができるような形にし、当市が取り組んでいる部分、関心がある部分を積極的に出していきたいと考えております。今現在は、組立を検討している段階であります。

○二階堂市長

その説明だと、セールスは少し止めてもらいたいということか。

○井浦生涯学習課長

市外の団体が来られた際にも防災キャンプの対応をしたいと考えております。荒木コーディネーターが説明したとおり、無償の指導者もありますが有償の指導者もあります。現在あかたにの家は注目されておりますが、予算がなく市内の防災キャンプしか対応できない状況なので、ぜひ予算を確保させていただきたいと考えております。市外から来られる団体や群馬大学の先生も無償で来ていただいております。研究費にも限りがあり、謝礼をいただければ助かると言っておられる部分もありますが、他市の方にも対応できるよう、荒木コーディネーターと考えてまいりたいと考えております。

○二階堂市長

予算のこともあるが、全国に先駆けて新発田が防災キャンプを始めた。サランラップ現象というものがある。誰も「塩化ビニールラップ」などとは言わず、商品名で「サランラップ」という。「防災キャンプは新発田」というくらいまで一気に進めなければならない。最初の一気に進めていくことが大切である。最初につまずいたり、ゆっくり考えるなどと言っていると、もう第2・第3の防災キャンプが出てくる。やるんだったら徹底してやる。そのために予算が必要だというならばわかるが、予算があればやるということでは勝負にならないので、きちんと考えておいてもらいたい。ほかにございませんでしょうか。

ないようでありますので、以上をもちまして会議を終了したいと思います。

工藤教育長さんがまとめていただいたように、郷土愛や生きる力をしっかり子ども達に育んでいきたいと思っております。今日は大変素晴らしい教育会議だったと思っております。できれば防災キャンプは1回も見えていないので、子ども達の邪魔をしないように、少し見学する機会を与えてほしいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

○原みらい創造課長

ありがとうございました。以上をもちまして第1回総合教育会議を終了させていただきます。